

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【浩養小学校】

平成31年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童，中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」，「算数」，「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（1）教科に関する調査 【下記（ア）と（イ）を一体的問う】

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

* 出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（2）児童に対する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

* 調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（1）教科の正答率について（※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

| | | |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 国語 | 学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて，その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題 | B |
| 算数 | 学習指導要領第2章第3節算数における，「数と計算」，「量と測定」，「図形」，「数量関係」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題 | C |

☆ 全国平均正答率との比較について

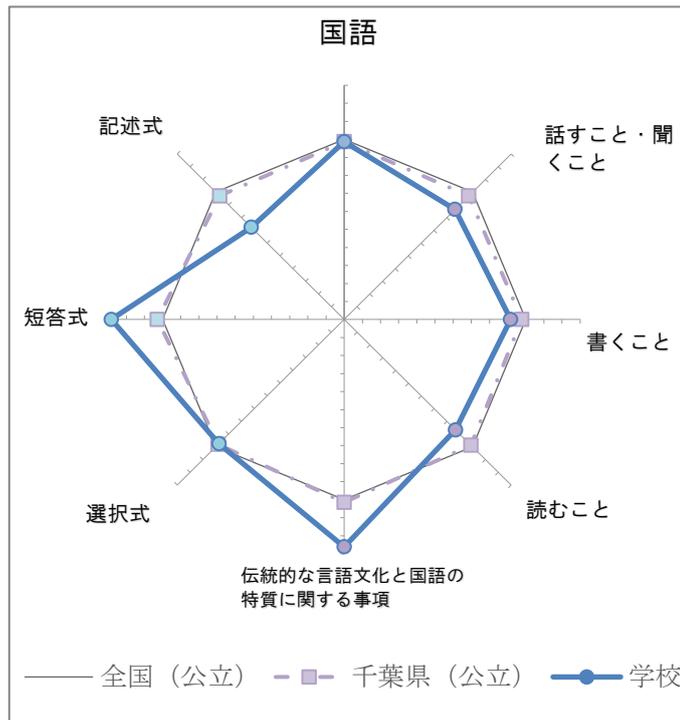
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



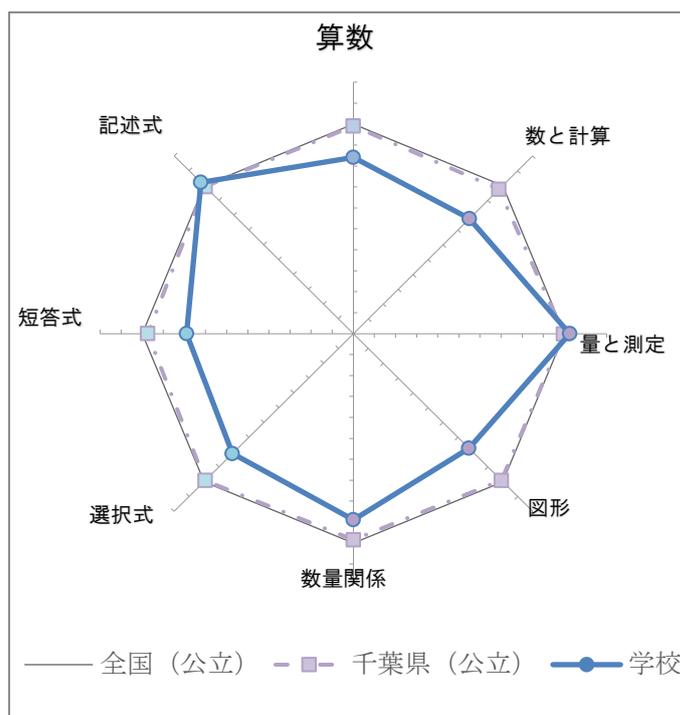
【特徴と現状】

- 全体の正答率は、全国平均とほぼ同じでした。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域では、正答率が全国平均を下回っています。
- 漢字を文の中で正しく使う問題と、文と文との意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書く問題では、正答率が全国平均を大きく上回りました。
- 「短答式」の問題においては、正答率が全国平均を大きく上回っていますが、「記述式」の問題では、全国平均を下回っています。
- 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題があります。
- 「話すこと・聞くこと」では、目的に応じて質問を工夫すること、話し手の意図を捉えながら聞き自分の考えをまとめることに課題があります。

【改善方策等】

- 漢字を文の中で正しく使うことはよくできていました。学校でのドリル学習や家庭学習の成果が出ています。引き続き、基礎的な問題を繰り返し解く学習を充実させ、「月例テスト」や「とみの国検定」の合格を目標にし、児童の意欲を継続させていくように努めてまいります。
- 日常生活で使われる慣用句の意味を考えたり、主語・述語の関係に目を向けて文を書いたりする活動を積極的に取り入れ、言語についての知識・理解・技能の力の向上を目指します。
- 「読む」力の向上には読書活動が不可欠です。引き続き、学年の目標ページ数を達成できるよう励ましながら、読書活動を推進していきます。
- 目的に応じて必要な情報を捉えたり、文章全体の構成の効果を考えたりする力が不十分でした。そこで、学校では国語科の学習に限らず、社会科や総合的な学習の時間においても、目的に応じて資料を引用したり、必要な内容を整理したりして書くことができるよう指導をしてまいります。

算数



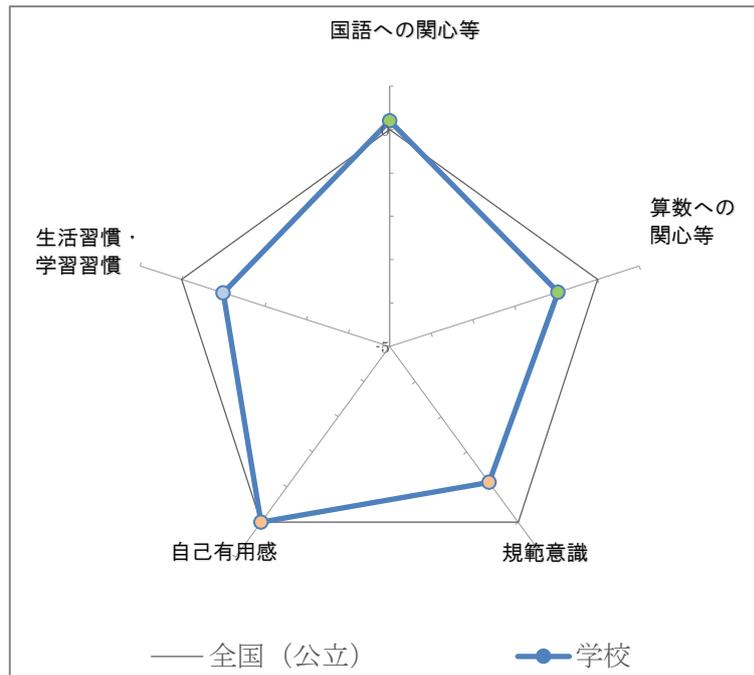
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「量と測定」の領域では、正答率が全国平均とほぼ同じでしたが、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域では、全国平均を大きく下回っています。
- 「記述式」の問題の正答率は、全国平均とほぼ同じでしたが、「短答式」と「選択式」の問題においては、正答率が全国平均を下回りました。
- 示された図形の面積をどのように求めているのか、その求め方の説明を記述する問題においては、正答率が全国平均を大きく上回りました。
- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題では、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 台形について理解できていない児童が 20%おり、二つの合同な台形をずらしたり回したり裏返したりして、ほかの図形を構成することに課題が見られました。
- 「 $600 \div 15$ 」を計算しやすい式にして計算することや、除法の式の意味の理解に課題があります。
- 目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことに課題が見られました。
- 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び立式することに課題があります。

【改善方策等】

- 単位量あたりの大きさについて理解するためには、与えられている数値を数直線に表して考えることが有効です。問題文を読み、一つ一つの数値が何を表しているかを丁寧に確認しながら数直線を作り上げたり、数直線を基に説明したりする活動を充実させてまいります。
- 示された式で求められる問題を選択する問題に課題がありました。一般的な、「問題文」→「立式」→「答え」という流れにとどまらず、式から問題文を作ったり、それらを児童相互で解いたりするなど、考えを深める学習を取り入れてまいります。
- 記述式の設問にもしっかりと取り組むことができ、無解答率は低いです。そこで、自分の考えを筋道立てて表現する力を伸ばしていくために、学習活動の中で、自分の考えをノートに言葉や図で表現し、それを友達に説明する活動を多く取り入れていきます。互いに考えを伝え合い、検討する活動を充実させてまいります。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に全員が「当てはまる」と回答しました。自己肯定感をもって楽しく学校生活を送っている児童が多いことがわかりました。
- 「読書は好きか」の質問に9割の児童が「好き」と回答し、全国平均を上回っていましたが、「新聞を読んでいるか」の質問には9割の児童が「ほとんど読まない」と回答しました。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に「している」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく下回っていました。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に、全員が「当てはまる」と回答しました。思いやりの気持ちを行動に表すことができている児童が多いことがわかりました。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。学校においては、今後も日頃の授業の充実に努めていくとともに、月例テストや「とみの国」検定を通して、漢字・計算練習に繰り返し取り組み、基礎的・基本的な学力の定着を図っていきます。また、さまざまな場面において、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら話し合いを進めていく力を身に付け、学び合いの学習をさらに充実させていきます。

学校のきまりを守って生活している児童が多く、与えられた課題にはほとんどの児童がしっかりと取り組むことができますが、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童はごく少数でした。今後は自主学習にも取り組んでいけるように、自主学習の進め方などについて学校からも提案していきます。家庭との連携を図りながら、児童が自分で計画を立てて勉強をしていけるよう支援していきます。